

私たちと 森林

日本の森林 について

日本の森林面積は約2,500万ha(本州、四国、沖縄を合わせたくらいの広さ)あり、国土面積の約7割が森林です。

このうち、林野庁が管理している「国有林」は、森林面積の約3割に当たります。

国有林を含め全国各地に広がる森林は、良質な水の供給や土砂災害の防止など、私たちが生活していく上で大変重要な働きをしています。

「レクリエーションの森」 とは

国有林では森林を守り、育て、利用する様々な事業を行っています。

この事業の一つとして、森林浴や野外スポーツなどに適した国有林を「レクリエーションの森」(2020.4.1現在、全国で620箇所)に設定しており、保健・文化・教育・観光などの様々な場に利用されています。

もっと、 自然に親しもう!

ライフスタイルが多様化し、一人一人の生活の中で森林を積極的に利用する新たな動きが見られます。

一方、気候変動や自然災害など世界各地で起きている課題を世界全体で取り組むSDGs(持続可能な開発目標)があり、17の目標が掲げられています。

ここでは、森林の新たな利用のキーワードである健康、観光、教育について、SDGsとの関係とともに紹介します。

	3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに 	8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任 	15 陸の豊かさも守ろう



キャンプってすごい!

森林でのキャンプは、キャンパーを癒やし、山村を賑やかにし、子供達の心を豊かにします。まさにキャンプは、健康、観光、教育の全てに効果的な活動です。

また、キャンプで使用する食材や薪を地元で調達することを通じて、地元の人達との交流が始まるかもしれません。

さらに、Wi-Fiを整備するキャンプ場が増えており、キャンプ場でテレワークをしながら、休暇を楽しむ時代がすぐそこまで来ているかもしれません。

CASE 1 **健康**
 [関係するSDGs]
3 8 9 11 15

森林浴、森林セラピー、クアオルト^{*}、いずれも森林を利用した健康づくりを表すワードです。心と体のリフレッシュや健康維持・増進の場として森林利用が進められています。

森林の中でゆったりと過ごし、心の保養を行うのもキャンプの楽しみの一つですね。

※ドイツ語で、クア (Kur)「治療・療養、保養のための滞在」とオルト (Ort)「場所・地域」という言葉が合わさった言葉です。本場ドイツに倣い、森林を活用したクアオルト健康ウォーキングなどの取組を行う地域が増えてきています。(日本クアオルト研究機構 HP より一部引用)

CASE 2 **観光**
 [関係するSDGs]
9 11 12 15

森林内でのレジャーといえば、これまではハイキングやスキーなどが中心でしたが、最近は、森林をそのまま利用したアスレチックやグランピングなど新しいアクティビティが注目されています。

森林内に張られたワイヤーロープを滑車を使って移動するジップラインは、まるで木から木に飛び移るムササビにでもなったかのように、上空からの景色とスリル感は癖になるかもしれません。

CASE 3 **教育**
 [関係するSDGs]
4 11 15

自然環境を活かした保育・教育へのニーズから、乳幼児期の子供に自然体験の機会を提供する「森のようちえん」などの自然保育を行う活動がみられるようになってきました。

森林をフィールドにして数人の子供達がグループをつくり、各ポイントを巡って答えを導き出すプログラムがあります。立木、落ち葉、昆虫、動物の足跡など自然に触れながら、楽しく学習できますので、林間学校で体験してみてください。